

第 8 1 回日本授業UD学会中国支部例会の感想 (2020. 2. 15)

アンケートより

○理論と実践が結びついたもので、とても貴重な研修になりました。PCK の理論、UD の実践を自分の武器にしていけると、今後の全面実施に向けてよい準備ができると確信しました。省察的な実践を重ね、プロの教師として技術的熟達者になれるようしっかり頑張りたいモチベーションが高まりました。ありがとうございました。

○新採でもがきながら日々過ごしています。今 4 年を担任していて、「何倍でしょう」は私もやったなあ〜と思いながら見ていました。九九が入っていない子も多くてできないけど、文題を理解していない子も多いため、常に視覚的情報を与えて取り組ませています。今日、身体的に理解することを学んだのでやってみようと思います。講義の方は難しかったけど、単元を文章化するのも悩んだので、これからもっと教材研究をしなきゃなと感じました。めちゃくちゃ遠かったけど、話を聞いて良かったです。ありがとうございました。

○具体的な授業実践をなぞりながらのお話がとても理解しやすく勉強になった。学校に持ち帰ってミニ模擬授業をしてみたいなと思える内容だった。ありがとうございました。

◎ペアでの活動が所々に組み込まれていて研修をうけやすかった。

◎実践発表に出てきた指導案が持ち帰れる。

▲授業で使われて教具もいろいろ工夫されておもしろかったので、提示物の写真もプレゼン資料の中に入っているとなお良かった。

◎伊藤先生と磯部先生の話がつながる部分があって納得できやすかった。

○教師の PCK から・・・

教える側は、知識を知って知識を教えていくだけに終わることがないようにすること。子どもたちの育成すべき資質能力は何なのか！？を しっかりとをもって授業を進めていくべきだということを教えていただいた。(ここがいつもぐらつくため、あれもこれも・・・と、その単元や 45 分に入れすぎてしまいがちになる) 算数科はイメージの力が大きく作用し、日々子どもたちの経験・体験からくるイメージが乏しく読み取りがむずかしい。伊藤先生から教えていただいたように身体で表現させたり、具体物を取り入れたりしながらしっかり文章を読む力をつけさせていきたいと思います。本日はありがとうございました。

○伊藤先生の実践発表では量感を子どもたちに意識させるために身体表現の活動を取り入れられており、明日からの自分の指導にも生かしていきたいと思われるものでした。子どもたちが問題場面をイメージするためにも、また楽しい授業にするためにもとても良い手立てだなと感じました。

磯部先生の講話では、子どもたちに教える指導内容について、教師の側が「なぜそれを教

えるのか?」「何を教えるのか?」と 考え整理して子供たちへの指導に当たっていかなくてはいけないのだなと感じました。ありがとうございました。

○（伊藤先生の実践発表）

・量感は本当に大切だなあと思いつつ、自分にもきちんと身に付いていない現実もあり。日頃から「身体で量感たいそう」や「身近なもの（机, 教室, グランド…）で捉えていく活動」を取り入れていきたいと思いました。

・「選択肢をつくる」という仕掛けの奥深さを感じました。何のためにそうするのかを今一度考えたいと思いました。

（磯部先生の講話）

・これまで学習コンテンツで追っていたのでなかなか授業も変わってこなかったと反省しました。コンピテンシーでラベリングを変えてみることで、やるべきことがはっきりしてくることが分かったので、私の頭の中にアップデートしたいです。大変勉強になりました。ありがとうございました。

○支援の必要な児童が授業に参加できる手立てを学ぶことができました。焦点化した授業ができるようにしたいとおいます。

○子どもたちの資質能力を育成するために、まずは子どもたちの課題を分析すること、分析して課題が分かったら、その課題に焦点を絞った授業づくりをすることが大切だと分かりました。何もかも全部やろうとすると45分の授業では難しいけれど、力を入れてすることをしぼった上で、授業の中で仕掛けを取り入れることを目指して教材研究、授業改善をしていきたいと思えます。ありがとうございました。

○量感というものを体を使って表現することはクラスでも実践しており、1mm・1cm・1mは手を使って表現できるようになっている。そうなったことで、「教科書の厚さは7（ ）」（単位をかく）のような問題では間違いが減っており、効果をかんでいるのでこれからもどんどん実践で使っていきたい。ありがとうございました。

○本日はありがとうございました。

算数で学習問題をどれだけイメージできるかがいかに大切かが改めてよく分かりました。子どものつまずきを想定することは授業づくりの中で重要であるということは分かりますが、自分の想像以上につまづくことが多く、いつも対応できずに終わってしまうことがほとんどです。提示の仕方を工夫して、ある程度同じ土俵にのせてから深めていくというUDの授業を実践していきたいと思いました。コンテンツとコピテンシーの考え方のように子どもに身につけさせたい資質能力を明確にすることを意識して行いたいです。

○お二人の講師の先生から大変貴重な実践事例を講話いただきありがとうございました。

「問い」を考えるとという点において、自分はよく「なぜ～だと思おう？」と聞いてしまいがちだと感じていて、今日のお話で、選択肢のある発問や限定できる発問をもっと意識して授業実践していきたいと思いました。また、山場から逆算し、共通のモデルを用意して考えを伝え合う授業づくりも日々の中で活かしたいと感じました。また、磯部先生のお話からはPCKについて、それからPISAや全学調を通しての読解力についての考え方の見直し、しきりにワードで出ていた思考力、表現力、判断力に行ける課題を改善するために教師がどう変わっていくべきかを伺い、少し危機感も覚えました。新学習指導要領実施まで時間は限られていますが、今日の研修での学びを生かして準備していきたいと思います。ありがとうございました。

○あっという間の時間でした。楽しく私なりにコンピテンシーを深めることができたかなと思います。先生方のお話からは子どもたちの生き生きとした瞳が目にかき大変よい時間となりました。どんな資質をつけてやるのか、そのようにどのように時間配分し、どのような方法・手がかりがあれば全員が自主参加し深い学びができるようになるのか、私も楽しく考え出し、授業を仕組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。竹野先生のお話もすごく参考になりました。またうかがいたいです。

○子どものつまずき、実践を系統的にとらえ、授業をどう改善していくべきなのか、日々の授業のつくり方を見直さなければならないことを痛感しました。どんな姿を目指すべきか具体的に考え、そのためにどんな方法で全員参加を意識するのか、「ねらい」を焦点化して授業をつくっていかうと思います。

“PCK”は自分自身の意識次第で「最適化」できることを頭にいれて、教科内容を系統的に分析し、子どもの実態にあう授業方法で授業をつくれるよう、自分の“選択肢”を広げていきたいです。大変勉強になりました。ありがとうございました。

○児童のつまずきをしっかりと想定し授業を進めていくことの大切さを感じた。はじめに全員で考え方を学び、適用問題で自分のやり方で解くようにするなど改善していきたい。

○いきなり開会行事の円、メジャーリーグの問題で私自身がつまずいてしまい、伊藤先生の身体表現で理解できました。伊藤先生の説明も視覚資料、身体表現付きで子ども同様私にも理解できたので使っていきたいと思います。磯部先生のお話の中に出てきた台形の説明は、山口県の確認問題（10月）にも似たような問題がでていて、先日やり直しさせた際「できない子はできないよね」で終わっていたので反省。誤答の分析ができていませんでした。反省です。お二人に教えていただいたことをもとに、授業に参加させた上で問いを焦点化して、子どもたちに分析する力をつけさせたいと思いました。私にとっても分かりやすかったです。ありがとうございました。

○とても具体的で分かりやすくあっという間でした。特に印象的だったのはPCKを高めて

いくことの大切さと、算数の単元名をコンピテンシーで表現するところです。後者の方は全然思い浮かばず、自分がこれまでコンテンツばかりで捉えていたことを痛感しました。しっかり教材研究をし、つきたい力は何なのかを考えながら授業づくりをしていきたいです。新学習指導要領完全実施に向けてのお話も大変参考になりました。ありがとうございました。

○選択肢をつくることで、一人ひとりが参加しやすくなり、適宜「絶対に違う選択肢」を問うことで子どものやる気に火をつけることができるのだと、実際の授業を再現される中で実感しました。また、身体表現によるイメージ化の支援は、いろいろなバリエーションができることを教えてもらったので、こどもたちと一緒に表現の仕方を探りながら、楽しく量感を育てていけたらいいなと思いました。磯部先生が最後に言われた授業の焦点化のアドバイスが今後の算数授業の推進力となりそうです!!

○すべての子どもが授業に参加できるようになるために「しかけ」「身体操作」などは効果的であると感じた。

磯部先生のお話から教師がこどもたちにどんな資質・能力をそだてたいのかをはっきりとさせることがたおせつだということがよく分かった。二人の先生の話を生かし、子どもたちが主体的に学習に向き合えるように自分なりのアレンジを加えていきたいと思う。

○これから何の力を身に付けるのか。何が足りないのか。そのために、どのように授業を変えていくのかというご示唆をいただき、大変勉強になりました。伊藤先生のご実践も形だけを取り入れるのではなく、その目的をしっかりと理解した上で、土台をそろえたり、個人差を解消したりするところで使っていきたいと思いました。ありがとうございました。

○子どもに育てる力が、学力調査分析をしても校内ではばらばらになってしまう（レベルが違ってくる）ことに、もどかしさを感じていましたが、今日のご講話を聞き、どのように掘り下げていけば良いかが見えたように思います。実践に生かせるよう自身の力を高めていきたいとします。

○算数の学びの深さと面白さについて考えることができました。子どものつまずきを知り、そこに焦点をあてて学びを追求することで子どもたちの課題に向き合えるように感じました。自分の授業を振り返ると、できる子の活躍だけで進めている気がします。選択肢をつくり、間違いについても全員で考え、全員で深い学びに進める授業づくりをしていきたいと思いました。

○伊藤先生にはいつも新しい授業のヒントをいただいています。その際、やはり子どもがどこがわからないのか、どんなまちがいをするのかということが根本にあることを再確認することができました。磯部先生のお話が結びついて、どんな力をつきたいのかということをも明確にして授業をすることが大切だと思いました。とてもよい勉強になりました。ありがとう

ございました。

○諸事情で遅れてしまいました。伊藤先生のお話が十分聞けなかったのが残念でしたが、個人的にダイジェストでお話いただきました。磯部先生のお話はどんな資質能力を育てるのかを明確にして授業をつくるのが大切だとわかりました。が、むずかしいことだとも思います。教員が組織的に互いで補い合いながら授業づくりをすることが、ますます求められるのでしょうか！勉強になりました。ありがとうございます。

○最初の実践のところから学ばせていただければ…と後悔しています。また機会がありましたらお話を聞かせていただきたいと思います。磯部先生のお話は子どもの姿が見えてくるようなお話だったので、とても興味深かったです。挑戦してみたいなあと思いました。竹野先生のお話も聞けてラッキーでした。

○お世話になりました。バージョンアップされた伊藤先生の実践を拝聴しながら、さらにイメージの大切さ、量感の大切さを感じました。益々勉強したくなりました。磯部先生の講話では、コンピランスーについてさらに考えることができました。誤答分析がつくづく大切であることもよくわかりました。自分の勉強としても深い学びにしたいと思いました。

○伊藤先生の実践は、体の感覚を使って子どもたちのとらえにくい量感を考えながらとらえさせていくところが、私が担任をしている学級の困り感にピッタリと合いそうなので早速月曜日の授業から活用していきたいと思います。